



## 衝動的に暴れる子ども ～ 感情支援の視点 ～

小学校3年生で、突然暴れる子どもがいます。「愛着障害」という言葉もよく聞くので、抑えつけずに子どもの要求を聞いていますが、要求が増え、暴れ方がひどくなるばかりです。



人をケガさせてしまった時に、「腹が立つ」と叫んで怒りだした中学生がいました。困った、しまったという混乱を、怒りと感じてしまったようです。



ネガティブな気持ちを、立て直してもらう経験が必要です。

### 《 感情のラベリング 》

子どもの気持ちを言葉で表現してやります。辛そうな表情を、「辛いね」「友だちと喧嘩して、悲しいのかな」と言葉で表してやるのです。自分の気持ちを言語化してもらうことで、自分で感情の処理をしていくようになります。

励ましも、いきなり「頑張ろう」でなく、「辛かったね」と一旦気持ちを受け止めてから励ましの言葉をかける方が効果的です。

言語化・感情の立て直し・安心感が自律性を発達させます。

小学2年生前後で暴力行為が増えています。かまってしまう欲求が強く、制止されると衝動的になります。求めるまま応えていると要求がエスカレートしていきます。

さまざまな要因により支援方法が異なりますので、専門家の視点を入れたアセスメントが重要です。

《 遊びのルールを守れない場合 》 要因による対応のちがいを

### ADHD（注意欠陥多動性障害）

ルールを守る気持ちはあるが、一連の行動につながらず、衝動的に違う行動になる。

（必要な支援）

行動を分解してスモールステップの行動支援

### ASD（自閉スペクトラム症）

ルールが自分のとらえ方と合っていないと、守らない、参加しない。

（必要な支援）

あらかじめ見通しを持たせる認知支援

### 愛着障害

ルールを守った方が楽しいと思えない。注目されるためにルール破りをする。

（必要な支援）

キーパーソンによる感情支援

### 愛着障害は、愛情不足の意味ではない

愛着障害は愛情不足とは別物で、ただ抱っこしていれば解決するというものではありません。

愛着（attachment）とは、幼児が大人にくっついて、感情を受け止めてもらい、感情の意味を知り、自律性を獲得していくことです。特に、不安や感情が崩れた時に大人に感情を立て直してもらい安心できた経験が重要です。愛着が形成されていない場合、ネガティブな感情を受け止められず、混乱して衝動的になると考えられます。

愛着への支援をはじめると、試し行動、先生の独占、赤ちゃん返りの行動を繰り返すことがあります。児童養護施設や里親は、それらの行動を受け入れて「育ち直し」を支援します。しかし、学校で、育ち直しの行動すべてを受け止めることは難しいかもしれません。SCやSSW・相談員等とアセスメントをしながら支援することが必要です。

【参考】「愛着障害・愛着の問題を抱えるこどもをどう理解し、どう支援するか？」米澤好史 福村出版  
「改めてアタッチメントの大切さについて考える」遠藤利彦 金子書房  
「アタッチメントと親子関係」近藤清美 家庭養護促進協会

# 子どもが混乱しない愛着支援 ～ 先手の重要性 ～

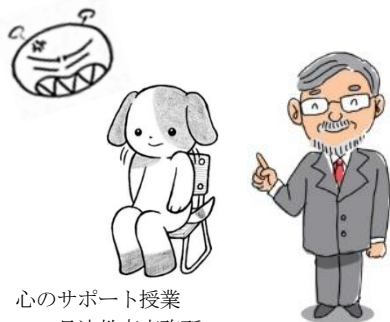


自分の感情を言葉にしてもらって、感情を知り、言葉にできるようになる。

## 安全・安心の基地



必要な時は、守ってくれ、教えてくれる。  
頑張っている時は、見守ってくれる。



心のサポート授業  
丹波教育事務所の  
富永良喜SCが支援します。

## 1 愛着支援（感情支援）のポイント

### (1) キーパーソンが安全・安心基地になる

#### ① 感情の言語化・感情のラベリング

子どもが感じていることを、言葉にしてやります。

〔何をしたら、何が起って、どんな気持ちになった〕

(行動)

(認知)

(感情)

#### ② 先手支援・先導支援

感情支援のために、主導権を子どもに預けません。「自分が先生を動かした」と子どもには思わせないことです。

#### 《キーパーソンによる先手支援の例》

教室からの飛び出し 《行動パターンを予測して》

(後手) 飛び出した後を追いかける。

(先手) 「・・・するために先生と・・・へ行こう」

呼びかけ

(後手) 「何をしたい？」

(先手) 「これをしない？ したかったよねー」

要望に対して

(後手) 「いいよ」「だめだよ」

(先手) 「・・・だけでもいいよ」(部分許可)

「・・・か・・・から選んでいいよ」(選択許可)

先に要望されてしまったら

(先手) 「そろそろ言ってくると思っていたら、やっぱり言ってきたね」

### (2) キーパーソンが探索基地になる

#### ① 見送りと報告

安心感を持つと、子どもは行動を始めます。「行っている？」と確認の視線を送ってくるようなら、探索基地として機能しています。後押しをしてやってください。

行動後の子どもの報告が重要です。基地機能を担う人と行動・経験を共有したいと子どもは思います。

ネガティブな感情も、共感されると減少します。報告・共感、自己評価を高め、自立準備のための支援です。

#### ② キーパーソンに情報集約

報告の時にキーパーソンが支援するには、基地から離れた時の行動を知っておくことが重要です。すべての情報がキーパーソンに届くように周囲の協力が必要です。

## 2 授業や学級集団での支援

少人数の学級は先生への独占欲が強くなり、かえって対応しきれなくなることがあります。低学年の子どもは1対1の受容感が大事ですが、少しずつ他の子どもにつなげていく工夫も必要ではないでしょうか。

- ・授業で、友だちと結びつける声かけや指導をする
- ・どの子どもにも集団での役割を与える
- ・自分で選択し、自分で決定することを大事にする

## 3 心のサポート授業

心のサポート授業は、ストレスの受け止め方や対処を学びます。TNBだより令和4年8月号をご覧ください。